



# 西幼だより

羽島市立西部幼稚園  
令和5年7月19日 No. 8  
園長 安藤賢治

## 《幼児育》育はともかく、教はいかかなものか。

◆突然、何を？とお思いでしょうか。

これは、幼稚園で購読している「幼児教育じほう」  
(発行：全国国公立幼稚園・こども園長会) 今月号  
「養老孟司(東京大学名誉教授)」の論説からの引用です。



他にも・・・(下線加筆)

子どもについて「論じる」よりも、  
子どもと一緒に遊んだ方がいい。

子どもはあちこち動きまわり、  
あれこれ叫んだりするものである。・・・(中略)

子ども時代をどう考えるか、と  
いうことである。それをどこまで  
許容するか、現代の大人には、そ  
こが問われていると思う。

結論は幼児は育だけでいい、ということになるうか。  
幸せを感じて生きてくれればいいのであって、苦労は  
のちの人生で十分にするはずだから、それを待てば  
いいのである。

江戸時代以前の日本人はそうだったみたいで、だ  
から外国からの客人は子どもが幸せそうだ、大人は  
よく笑う、と書き残している。

子どもは小さい大人ではない。あくまでも子どもで  
あって、それが子どもの権利であり、人権である。  
大人の尺度で見れば子どもは常に不完全であり、  
不完全であることが子どもの権利なのである。

今一度、確認したいことが重なりました。

・・・養老氏の論を心に留めて、園児たちと向き合いたいと考えます。

・・・さて、<夏休み>です・・・

➤ 家族の皆さんにとって、かけがえのない時間となることでしょう。**“一日中、そばにいる！”**

うれしいでしょうね。子どもは！・・・親も！ですね・・・

ほんの一寸の一言で

ちよっと

不思議に大きな力持つ

その一言で 泣かされる

その一言で がっかりし

その一言で 腹が立ち

その一言で 夢を持ち

その一言で 励まされ

その一言

高橋 系吾